

学 園 報

No.39

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsnet.or.jp/~midorino/>
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉にながわ保育園 URL <http://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

21世紀は「個人の働き」の時代



理事長
金岡 祐一

理事長：2017年の新年、富山の自然・これから白銀が訪れる北アルプスの雄姿。学園教職員の皆様にはお褒りなく御健勝の趣、大慶に存じ、教育という最重要・社会的使命への日々の御尽力に敬意を表します。

さて、20世紀を思い起こせば、一般に人々の考え方は、(重点の順に)「国→組織(会社など)→個人」の流れであったと、誰しも気づくでしょう。

しかし今21世紀では、むしろ「個人の働き」こそがクローズアップされてきたのではないかと思います。いわば方向が真逆になるのではないかと。すなわち「個人としての人材」が、社会を改革する——今や「人材改革の時代」になってきたと考えます。

民主主義は多数決だが、その思想構造の根底を形成するのがこの「個人の在り方・考え方」であり、その積分が、民主主義なのでしょう。しかし、ひるがえって我国をみれば、アベノミクスも肝心の成長戦略の内容は見え、国の将来は問題山積。明日は如何になるのでしょうか。

我が学園でも、皆さんが、つまり「我々一人一人の個人活動」が、その組織の前進・進化に深く関わっています。そういう視点に立って、学園の今日と明日を考えていただきたい。

では傑出した個人とは？私は例えばアップルを世界企業へと押し上げたスティーヴ・ジョブズを思います。彼のキーワード“Stay hungry, stay foolish.”が気に入っています。「熱き想いで愚直に」とでも訳しましょうか。こういわれると、自分も一つチャレンジを、という気に自然になるではありませんか。では、我々の学園の今日のPerspectiveをみましょう。

富山国際大学付属高等学校：10月にICT公開授業研究会。全校内に無線LAN・プロジェクター整備。富山県英語ディベートコンテスト優勝。テニス女子3月に全国選抜大会出場。

富山国際大学：「現代社会学部」スポーツ・文化活動では、ボート部男子が第43回全日本大学選手権大会のダブルス力

で優勝。ボート部女子は第49回全日本選手権大会のシングルスカルで栗山選手(3年)が初優勝。女子ハンドボール部は北信越学生ハンドボール秋季リーグ戦で優勝。国際交流では、韓国協定校・聖公会大学校学生4名が来校。大邱大学校、中国南通大学と交流等。「子ども育成学部」は教育と福祉を共に学べる学部として人材の育成に努めている。富山県障害者スポーツ大会運営補助等、地域現場を経験。富山県の小学校教員採用試験に18名合格。

富山短期大学：「専攻科食物栄養専攻」は大学コンソーシアム富山の「地域フィールドワーク研究助成事業」で優秀賞。「食物栄養学科」では富岡徹久教授が功労者として厚生労働大臣賞。石塚盈代名誉教授がG7富山環境大臣会開催記念シンポジウムで功労表彰。「経営情報学科」では日商PC検定3級取得率100%。「幼児教育学科」は公務員保育士合格者が昨年度を上回り19名。この3年間、合格者数を増やし続けている。教員体制も10名と充実し、授業の強化が進んでいる。「福祉学科」は入学者やや回復。富山国際大学・富山短期大学合同チームTWINSは第30回全日本大学女子野球選手権大会に出場し、「富山ベースボールクラブ賞」受賞。

富山短期大学付属みどり野幼稚園：公開保育に県内外から100名近く来園。父親の会活動も活発。一昨年より富山短期大学付属みどり野幼稚園改築構想委員会を立ち上げて検討を進め、2017年10月より新園舎を着工することが決定。

社会福祉法人富山国際学園福祉にながわ保育園：2017年4月に幼保連携型認定こども園へ移行予定。

以上、諸活動を概観しましたが、いずれの学校も、それぞれ前進・改革に向けて元気にお努めなのは、まことに心強いことです。我等が学園の先途に幸あれ。

CONTENTS

- 21世紀は「個人の働き」の時代
 理事長 金岡 祐一 1
- 特集1 富山国際学園の地域連携の取り組み
 2~3
- 特集2 富山国際大学 副専攻プログラムを開発
 4

- トピックス 第30回全日本大学女子野球選手権大会
 TWINS富山国際大・富山短大合同チーム
 ベスト8の快挙！ 5
- 平成28年度部門別学生・生徒・園児数等 5
- 平成27年度決算及び財務の状況 6~7
- 学園NEWS 8

富山国際学園の地域連携の取組み

富山国際大学 学長室長 長尾 治明
富山短期大学 地域連携センター長 深井 康子

学校法人富山国際学園は、昭和38年に県内私立高等教育機関第1号、富山女子短期大学(現富山短期大学)を開学し、平成25年に創立50周年を迎えた県内唯一、かつ北陸を代表する私学の総合学園です。本学園はこの間、昭和39年に富山女子短期大学附属高等学校(現富山国際大学附属高等学校)、昭和52年に富山女子短期大学附属みどり野幼稚園(現富山短期大学附属みどり野幼稚園)、平成2年に富山国際大学を設置して^{※1}、学園の充実・強化に努め確実に成長・発展を遂げ、今や、北陸地域の人材教育機関として地域になくてはならない存在となっています。

現在、本学園は次の50年に向けて再スタートを切り、歩み出したところですが、これからの50年は教育機関にとって大きな試練と対峙していかなければならない環境下にあります。国立社会保障・人口問題研究所が日本の将来推計人口を予測しているように、総人口が減少していく中で、少子化・高齢化が進んでいくことが明らかであり、特に、教育機関においては、少子化は大きな問題であり、今後の教育機関の存続に大きな影響を与えることになります。言い換えれば、今後の私学の存在意義や存在価値をどこに見出して存続性・継続性を担保していくか、真価が問われる時代なのです。

これまで、学園内の各機関は学園の建学理念である「高い知性、広い教養、健全にして豊かな個性」を礎にして、各機関の存在意義や存在価値を表現し弛まぬ努力を行い地域に浸透を図ってきました。こうした中、文部科学省の高等教育の施策方針も転換され、「機能別分化」という考え方が提言され、各大学の特色を重視する政策に移行しました。実際に、私立大学・短期大学を対象にした助成事業「私立大学等改革総合支援事業」も機能別にタイプ分けした選定が行われるようになり、平成26年度から(1)「教育の質的転換型」(大学教育の質向上)、(2)「地域発展型」(地域の発展を支える)、(3)「産業界・他大学との連携型」、(4)「グローバル化」の4タイプに分けられて募集が行われています。この考えは国立大学にも適応され、平成28年度から(1)「卓越した教育研究」タイプ(16大学)、(2)「専門分野の優れた教育研究」タイプ(15大学)、(3)「地域貢献」タイプ(55大学)の3タイプ^{※2}に機能分化されました。

このように、文部科学省の施策転換の中で、本学園の各機関はどのような特色を打ち出していくか、今まで以上に鮮明にすることが求められており、特に、学園の中核的な存在である「富山国際大学」「富山短期大学」の高等教育機関に、その必要性が問われています。この両教育機関は、歴史的な経緯や学問分野特性を踏まえ、実学・実務重視型教育によって人格形成をめざし、並びに専門教育を実践する本学園の特色を打ち出しています。そして、より鮮明に地元の高校を始め地域社会にその特色の浸透を図るために、

また教育の質的向上を図るために、早くから地方自治体との連携に着手し、実際に包括協定を締結してきました。

■富山市との包括連携協定

本学園が最も早く地方自治体と連携を行ったのは、富山市です。平成19年5月21日(月)に、森雅志富山市長と金岡祐一富山国際大学・富山短期大学学長との間で「富山市と学校法人富山国際学園富山国際大学及び学校法人富山国際学園富山短期大学との包括連携に関する協定書」に調印し、包括連携協定が締結されました。本協定書は「相互の緊密な連携と協力により、地域が抱える課題に迅速に対処し、個性豊かな活力あふれる地域社会の創造・発展に寄与することを目的」として、次の11項目を連携協力事項として掲げています。(1)地域経済の活性化、(2)観光の振興、(3)地域振興・まちづくり、(4)教育・人材育成、(5)生涯学習の促進、(6)幼児教育の推進、(7)地域福祉の増進、(8)食育の推進、(9)国際交流、(10)環境美化・保全、(11)その他の連携を前進するために必要な事項です。

この協定締結後、本学園は富山市から富山駅前 CiC ビル3階の部屋を無料で借用し、富山国際学園地域交流センター「サテライト・オフィス」として、主に生涯学習の拠点施設として活用しています。平成29年には、締結から早くも10年目を迎えます。

■南砺市との包括連携協定

平成27年10月27日(火)に田中幹夫南砺市長と中島恭一富山国際大学・富山短期大学学長との間で「南砺市と学校法人富山国際学園富山国際大学及び学校法人富山国際学園富山短期大学との包括連携に関する協定書」に調印し、包括連携協定が締結されました。協定書の目的は「相互の発展のため、学術・地域振興・文化・教育等の分野において、互恵の精神に基づく具体的な協力を有機的に推進させること」です。連携事項は、(1)地域包括医療ケアを基軸とした地域福祉、(2)地域資源・地域交流の活性化、(3)地域課題解決・まちづくり、(4)人的交流・人材育成、(5)生涯学習、(6)環境美化・保全、(7)その他、地域の持続的発展に必要な事項です。

平成28年12月17日(土)に南砺市地域包括ケアセンターの竣



富山国際学園南砺サテライト前にて

※1：富山国際学園創立50周年記念事業
(<http://www.tii.ac.jp/50th/>)

※2：ベネッセ教育情報サイト
(<http://benesse.jp/kyouiku/201603/20160331-1.html>)

工式が開催され、林清文富山国際学園常務理事と中島恭一富山国際大学・富山短期大学学長が参加しました。本センター2階には、地域の人材育成と地域交流の拠点としての機能・役割を担う「富山国際学園南砺サテライト」が設置され、本学園に対して地方創生のための実践力としての多大な期待が寄せられています。

■高岡市との包括連携協定



高岡市との連携調印式（高岡市役所）

平成28年11月18日(金)、高岡市役所において高橋正樹高岡市長、中島恭一富山国際大学・富山短期大学学長との間で「高岡市と学校法人富山国際学園富山国際大学及び学校法人富山国際学園富山短期大学との包括連携に関する協定書」に調印し、包括連携協定が締結されました。調印式には、草壁京高岡市役所企画部長と安達哲夫富山短期大学副学長も同席されました。

本協定では、(1)地域の健康・福祉、(2)地域資源・地域交流の活性化、(3)まちづくり、(4)地域産業・観光の振興、(5)人材育成、(6)生涯学習などを連携・協力し、地域課題を持続的に発展させることをめざしています。

調印式の冒頭で高橋正樹高岡市長は、「地方創生を実現していくためにも大学のもつ知と力をお借りしたい」と話され、中島恭一学長は「学生たちは観光や食物栄養、福祉などを専門に学び、多くは富山県出身で地元就職する。地元密着で高岡に貢献できることも多いと考えており、高岡の歴史・文化資源を大学教育に生かし、市の発展のために社会資源を有効に活用したい」と期待を込めて挨拶を述べました。

協定締結の準備期間中に、富山短期大学食物栄養学科及び専攻科食物栄養専攻の学生の専門的知識を活かして、同市の学校給食の献立を提案する事業から協力する運びとなり、学校給食のメニューに大学側が考案した献立を活かすという取り組みについて、平成30年度からの実現に向けた検討を、学校給食会の献立研究委員会等で平成29年度から開始することになっています。高岡市との連携で特徴的なことは、富山市や南砺市との連携事項には明記されていない「健康」がキーワードになることですが、今後、本学園の知的財産を大いに活用し、高岡市と学園相互で研究教育の発展に寄与してゆくことを願っています。

■地域連携の今後

このように、本学園は3市と協定書を交わして、現実に行き始めている地域の諸問題や今後の街の方向性等について、双方で協働して取り組む体制が構築できました。今後は3市との間で今日的課題を適宜議論をして、優先順位の高い事業、あるいはできることから順次着手していくことになりました。特に富山市と南砺市との間では、事業を円滑に進めていくために「協議会」を設置し、年に1、2回程度、具体的に実施すべき事項について討議する場を設けていきます。

更に、学生達の主体的学習意欲の向上と、思考力と実践力を養成するために、地域社会との連携をより深める仕組みづくりを行います。具体的には、富山国際大学と富山短期大学は、平成27年に富山大学を申請校とする「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加しました。富山国際大学は同年に「地(知)の拠点大学」に申請し認定されました。これらは文部科学省の補助事業で、平成31年度までの5年間事業であり、文部科学省が「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援する」ものです。現在、このCOC+、及びCOC事業は2年目を迎え、地方自治体や地域企業等と密な連携関係を構築することができ、地域が求める人材養成をめざして「長期研修型インターンシップ」や「文理融合型インターンシップ」「課題解決型プロジェクト」等を始動させることができました。また、地域が求める人材を養成するために必要なカリキュラム改革として、例えば、平成28年度後期から、現代社会学部では1年次生を対象に「キャリア・デザイン講座(県内企業等講座)」を開講し、地元企業の人事部の方に協力を得て、当該企業がどのような事業部から構成され、どのような人材を求めているかなどについて、講義形式で地元企業の理解促進を図っています。次年度からは2年次生を対象に、各市町村の首長、及び地域の先進的実践研究者を招聘して「地域課題探求講座」を開講し、また、県内企業の主だった経営者の方を招聘して「経営者講座」や県内有識者等の協力を得て「富山魅力発見講座」を新たに開講します。

今後は、学園の中核的存在である富山国際大学と富山短期大学がこれまで進めてきた地方自治体や経済団体、地元企業との連携を実質的なものに転換できるように推進していく予定です。こうした地域連携の実効性のある推進によって、今求められている「地(知)の拠点大学」として地方創生の推進的役割を果たし、それを確固たるものにしていくために、学生達を世の中の縮図的な諸問題や課題を実際に抱えている地域を学習の場として、もっと活用できる仕組みを学園内の各機関が考えていく必要があります。こうして、学生を地域社会に身を投じさせることによって、自発的学習意欲の向上と、現在の多くの企業が求めている課題解決力とコミュニケーション力を体得させ、地域社会の求める人材養成に努めていき、これを本学園のこれからの特色として打ち出していくべきだと考えます。

新しい教育プログラム(副専攻プログラム)を開設します

富山国際大学

富山国際大学では、「国際社会及び地域社会の発展に貢献する人材を養成する」との目的に沿った教育姿勢をより明確にして、強い存在感が発揮できるよう、平成29年度より、新しく「副専攻プログラム」と呼ばれる特色ある教育プログラムを実施することになりました。

学生の多様な知的探究心を喚起し、幅広い学びを提供し、広い視野と実践力を有し、社会で活躍できる人材を育成することを目的とします。

所属する学部学科の教育課程(主専攻)に沿って学習する科目の枠を超えた特定の分野やテーマ、学際的な分野等について、体系的な教育プログラム(副専攻)を編成し、これにチャレンジする学生が修了要件を満たすと、卒業時に学位記と併せて、「プログラム修了証書」が授与されます。

学生の皆さんには、主専攻に併せて大いにチャレンジすることを期待しています。

(1) グローバル人材育成プログラム(副専攻)

確かな外国語コミュニケーション能力を有し、多様な文化を理解して、国際的に活躍できる実践能力のある人材の育成を目的として、体系的な教育プログラムのもとで学習・実践活動を行う。

このプログラムにチャレンジして、次の3つの修了要件を全て満たした者には、本学が「国際的に活躍できるグローバル人材」として認定し、「プログラム修了証書」を授与する。

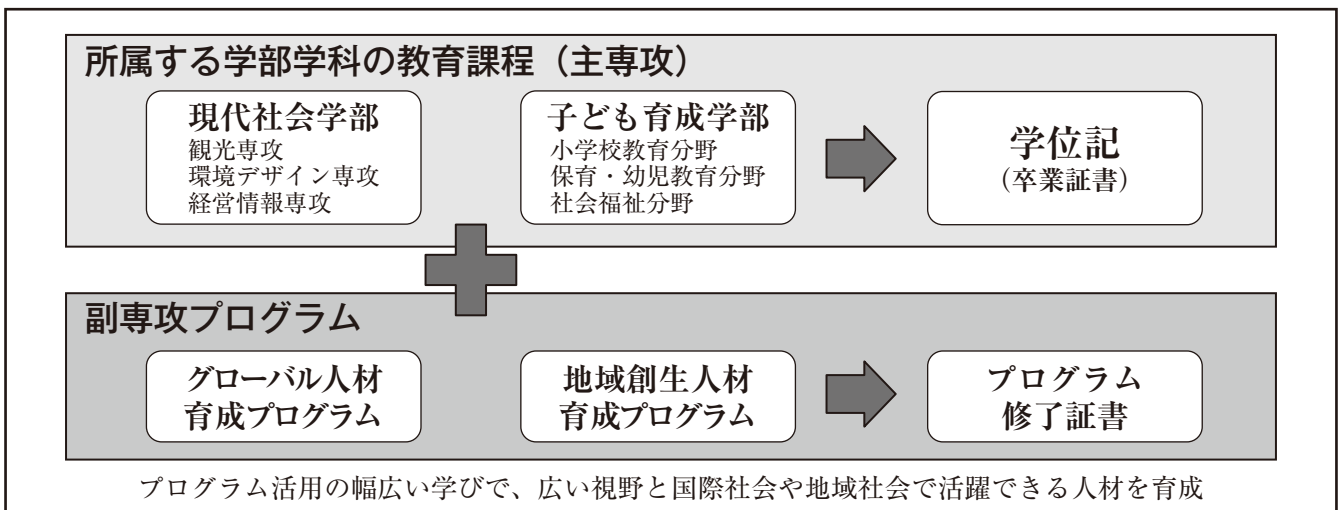
- ① 外国語科目及び多文化共生科目を一定単位以上修得する(GPA 3.0以上)。
- ② 6ヶ月以上の海外留学、またはそれに相当する国内外での国際活動を行う(但し、1回以上は海外活動が必要)。
- ③ 外国語検定で、TOEICスコア600点以上の英語能力、またはそれに相当する外国語能力を獲得する。(TOEICスコア730点以上は、グレードSを認定する)。

(2) 地域創生人材育成プログラム(副専攻)

COC+事業で、本学が「地(知)の拠点大学」に認定されたことに伴う教育改革に沿った人材育成プログラムで、地域創生で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成することを目的とし、体系的な教育プログラムのもとで学習・実践活動を行う。

このプログラムにチャレンジして、次の3つの修了要件を全て満たした者には、本学が「地域創生で活躍できる人材」として認定し、「プログラム修了証書」を授与する。

- ① 本学が定める地域志向科目(課題解決型学習、地元学習、情報技術向上学習、社会人基礎力学習)を一定単位以上取得する(GPA3.0以上)。
- ② 種々の課外地域活動(ポイント化)を実践し、一定ポイント以上を獲得する。
- ③ 地域課題解決型調査研究活動(卒業研究等)を行い、審査委員会(学外委員を含む)で審査に合格する。



第30回全日本大学女子野球選手権大会 TWINS富山国際大・富山短大合同チーム ベスト8の快挙！

TWINS 部長・宮田伸朗

平成28年8月26日(金)から9月1日(休)まで、全国から24の大学・短期大学が参加して、第30回全日本大学女子野球選手権大会が魚津市で開催されました。

富山国際学園からは、富山国際大学と富山短期大学の合同チームTWINSが出場しました。合同チームとしての出場は4年目。メンバーは、現役学生10人に短大OG枠1名を加えた少人数チームながら、はつらつとして粘り強く戦い抜きました。1回戦、2回戦と会心の勝利を重ねて順調に勝ち上がりましたが、準々決勝で日本女子体育大学に善戦むなしく敗退、全国大会ベスト8の成績を収めました。富山県勢の8強入りは10年ぶりとなる快挙で、地元魚津をはじめ広く県内の関係者の皆さんにも新鮮な感動を与えてくれました。

閉会式では、合同チームTWINSの健闘を称えて、特別賞「富山ベースボールクラブ賞」が授与されました。この賞は、平成27年の大会で準優勝校に与えられた賞で、今後の躍進に大きな期待がかけられていることを示しています。

【1回戦】(8月27日・桃山野球場) (5回時間切れ)

愛知医療学院短大	2	0	1	2	0	5
富山国際大・富山短大	6	0	0	4	×	10

【2回戦】(8月28日・天神山野球場) (5回時間切れ)

富山国際大・富山短大	3	2	0	4	9	18
大阪芸術大	4	0	0	0	3	7

【準々決勝】(8月29日・桃山野球場)

富山国際大・富山短大	0	0	0	0	0	0	0	0
日本女子体育大	1	8	0	1	1	1	×	12

高円宮妃久子殿下をお迎えした第30回記念大会の様様と地元チームTWINSの活躍ぶりは、地元紙にも連日大きく紹介され、富山国際大学と富山短期大学への注目も大いに高まりました。平成29年の31回大会では、多くの新戦力を迎え入れて練習環境も向上させ、さらに上をめざせるチームへと発展していくことが期待されています。

富山短期大学は女子短期大学時代の第2回・3回大会で連続優勝、富山国際大学は第7回大会で3位入賞と、どちらも実績ある古豪チームです。いずれは単独チーム同士で決勝戦を戦う日を実現させたいものです。結びに、ご支援くださいました地元老田地区体育協会をはじめ、学内外の皆様様に厚く御礼申し上げます。



平成28年度部門別学生・生徒・園児数等

平成28年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大学	現代社会学部	490	95	116	107	92	410	83.7%	
	子ども育成学部	330	91	92	102	90	375	113.6%	
	小計	820	186	208	209	182	785	95.7%	
短大	食物栄養学科	160	83	103			186	116.3%	
	幼児教育学科	160	90	107			197	123.1%	
	経営情報学科	210	116	118			234	111.4%	
	福祉学科	130	40	34			74	56.9%	
	専攻科食物栄養専攻	30	15	16			31	103.3%	
小計	690	344	378			722	104.6%		
高校	全日制普通科	745	319	279	248		846	113.6%	
幼稚園		84	3歳児 30	4歳児 34	5歳児 33		97	115.5%	
総計		2,339					2,450	104.8%	

平成27年度 決算及び財務の状況

平成27年度決算及び財務の状況

平成27年度の事業報告及び決算は、去る5月31日開催の評議員会・理事会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、全体で入学定員を3年連続で確保したことにより、当年度収支差額で83,025千円（H26 21,808千円）の黒字計上となりました。長らく赤字体質が続いていた大学が3年連続で黒字計上できたことは、学園の財務の安定化においては、非常に意義のあることと言えます。しかし、現代社会学部では、全学年で定員割れとなっており、今後、定員確保できるよう、学生や企業ニーズに応える魅力向上に向けて、更なる努力・工夫が必要であり、それが財務の安定化には不可欠と言えます。

短大

短大は、入学定員を若干下回ったものの収容定員は確保しましたが、全国的にも短大の志願者動向を見極めることは、非常に難しくなっています。本学においても、特に福祉学科は慢性的に定員割れとなっており、それを他学科で補うことができるかどうかは不明確な状況にあります。このため、当年度収支差額で、49,964千円（H26 40,971千円）の黒字計上となりましたが、決して安泰な状況ではありません。短大校舎改築Ⅱ期工事についても、未だ実施時期が未定であり、今後更なる財務基盤強化が必要です。

高校

ICT教育、国際交流活動及びグローバル化の推進などに積極的に取り組み、各中学校へアピールした結果、今年度も生徒数は定員を確保することができました。当年度収支差額は、36,610千円（H26 80,881千円）となり、近年は順調に黒字を計上できています。

今年度は県内でも先進的なICT教育環境を整備しましたが、今後は、ICTのみならず、国際交流分野やグローバル化にも更に意欲的に取り組むことや、海外を含めた進学実績を増やしていくことが必要です。

幼稚園

本園の保育内容や園庭の自然環境への高評価に加え、保護者会等との連携や預り保育の実施等も評価され、近年は収容定員を確保することができています。しかし、当年度収支差額は△8,811千円（H26 △6,593千円）となり、慢性的な赤字体質にあり、大学及び短大の実習園としての役割も担っていることを考慮しても、今後は収支改善に積極的に取り組む必要があります。

また、県内において、幼稚園を取り巻く環境は、少子化の進展など非常に厳しい状況にあります。本園が存続するためには、現在検討を進めている「みどり野幼稚園改築構想検討委員会」において、園舎の耐震化を中核とした本園の将来像を早急に策定することが必要です。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,774百万円（対前年度比110百万円減・3.8%減）、事業活動支出合計が2,561百万円（同161百万円減・5.9%減）、基本金組入額合計が95百万円（同25百万円増・35.7%増）となりました。この結果、平成28年度への翌年度繰越収支差額（累積赤字）は、平成26年度の前年度繰越収支差額△2,832百万円に、平成27年度の当年度収支差額117百万円を加え、△2,715百万円となりました。

収入減の主な要因は、①大学及び短大の志願者数の減、②大学受配者指

資金収支計算書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

(単位：千円)

活動区分	科目	27年度予算	27年度決算①	前年度決算②	差異①-②	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,879,687	1,899,413	1,857,538	41,875	
	手数料収入	37,285	36,289	39,290	△3,001	
	寄付金収入	5,792	6,496	18,786	△12,290	
	補助金収入	726,142	687,421	664,463	22,958	
	資産売却収入	1	0	0	0	
	付随事業・収益事業収入	78,706	58,153	87,838	△29,685	
	受取利息・配当金収入	10,220	7,428	8,155	△727	
	雑収入	61,544	65,129	202,284	△137,155	
	借入金等収入	0	0	0	0	
	前受金収入	466,991	446,426	488,043	△41,617	
	その他の収入	295,248	258,126	340,565	△82,439	
	資金収入調整勘定	△547,253	△572,541	△668,148	95,607	
	前年度繰越支払資金	919,362	919,361	785,929	133,432	
	収入の部合計	3,933,725	3,811,701	3,824,743	△13,042	
	支出の部	人件費支出	1,605,787	1,596,623	1,767,962	△171,339
		教育研究経費支出	598,061	532,037	517,120	14,917
		管理経費支出	131,179	122,315	126,387	△4,072
借入金等返済支出		0	0	0	0	
借入金等返済支出		0	0	0	0	
施設関係支出		7,937	7,334	7,466	△132	
設備関係支出		116,516	108,004	85,355	22,649	
資産運用支出		586,397	567,509	484,385	83,124	
その他の支出		203,548	202,596	118,754	83,842	
〔予備費〕		15,500				
資金支出調整勘定		△76,200	△83,468	△202,047	118,757	
翌年度繰越支払資金		745,000	758,751	919,361	△160,610	
支出の部合計		3,933,725	3,811,701	3,824,743	△13,042	

定寄付金の減、③補助活動収入における大学の寮収入及び高校スクールバス収入の減、④短大職業訓練委託生の減などによるものです。

支出減の主な要因は、①退職者減による人件費の減、②高校図書除却の減などによるものです。

資金収支計算書（当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出の顛末を明らかにするもの）において、収入の部では、その他の収入のうち、学園充実引当資産からの繰入収入（取崩）が昨年度に引き続き大幅に減少しています。これは、呉羽キャンパス整備工事が一段落し、大規模な施設設備投資が減少し、学園の積立資金を取り崩す必要がなくなったことによるものです。

支出の部では、人件費のうち退職金が大幅に減少しています。これは退職者数及び勤続年数の長短による退職金額が減少したためです。（詳細は、下記「資金収支計算書」を参照下さい。）

貸借対照表（当該会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするもの）において、学園の財務状況を見ると、平成27年度末現在の資産総額は12,647百万円となりました。一方、負債総額は1,180百万円、純資産の内、基本金は14,182百万円となりました。これらの結果、翌年度繰越収支差額は△2,715百万円となり、約117百万円収支が改善しました。（詳細は下記「貸借対照表」を参照下さい。）

平成27年度決算において、事業活動収支において、3年連続で黒字を計上することができ、学園の財務状況は若干改善の兆しが見えてきています。しかし、呉羽キャンパスの施設設備計画は、幼稚園園舎改修工事、短大校舎改築Ⅱ期工事などが残っており、未だ道半ばと言えます。加えて、大学東黒牧キャンパスは、大学開学から25年以上が経過し、今後、施設の老朽化に伴う修繕費の増大が見込まれます。言うまでもなく、これらを全て自己資金で行うことは容易ではありません。これからは、いかにして学生生徒を安定的に確保し、教育の質を担保した上で、自己資金を増やしていくことが重要となります。そのためには、各校においては、収入の拡大と経費の削減という2つの大きな課題に取り組まなくてはなりません。どちらも難題ではありますが、学園が永続的に教育を提供し、有為な人材育成を図るためには、全教職員が一丸となって取り組み、教育の基

事業活動収支計算書

平成27年4月 1日から
平成28年3月31日まで

(単位：千円)

活動区分	科目	27年度予算	27年度決算①	前年度決算②	差異①-②
教育活動収入	学生生徒等納付金	1,879,687	1,899,413	1,857,538	41,875
	手数料	37,285	36,289	39,290	△3,001
	寄付金	7,494	7,043	21,983	△14,940
	経常費等補助金	726,142	676,990	664,463	12,527
	付随事業収入	78,706	58,153	87,838	△29,685
	雑収入	61,545	73,108	204,593	△131,485
	教育活動収入合計(1)	2,790,859	2,750,996	2,875,705	△124,709
	人件費	1,615,787	1,606,492	1,760,364	△153,872
	教育研究経費	903,061	827,884	818,943	8,941
	管理経費	133,179	124,109	128,691	△4,582
	徴収不能額等	1	0	1,522	△1,522
教育活動支出合計(2)	2,652,028	2,558,485	2,709,520	△151,035	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	138,831	192,511	166,185	26,326	
教育活動外収入	受取利息・配当金	10,220	7,428	8,155	△727
	その他の教育活動外収入	1	0	0	0
	教育活動外収入合計(4)	10,221	7,428	8,155	△727
	借入金等利息	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	7,428	8,155	△727	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	149,052	199,939	174,340	25,599	
特別収入	資産売却差額	1	0	0	0
	その他の特別収入	4	15,743	0	15,743
	特別収入合計(8)	5	15,743	0	15,743
	資産処分差額	9,700	2,759	12,473	△9,714
	その他の特別損失	1	72	0	72
特別支出合計(9)	9,701	2,831	12,473	△9,842	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△9,696	12,912	△12,473	25,385	
〔予備費〕(11)	15,500				
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	123,856	212,851	161,867	50,984	
基本金組入額合計(13)	△80,963	△95,479	△69,685	△25,794	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	42,893	117,372	92,182	25,190	
前年度繰越収支差額(15)	△2,832,676	△2,832,676	△2,924,858	92,182	
基本金取崩額(16)	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△2,789,783	△2,715,304	△2,832,676	117,372	
(参考)					
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,801,085	2,774,167	2,883,860	△109,693	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,677,229	2,561,316	2,721,993	△160,677	

盤である財務強化に努めなければなりません。(学園の詳細な財務状況等は、学園のホームページ【http://www.tii.ac.jp/finance.html】に掲載しておりますので、そちらもご覧ください。)

平成27年度学校法人富山国際学園財務分析について

平成27年度決算の財務分析によると、法人全体及び各学校(幼稚園を除く)の収益性はおおむね良好、また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要がありますが、短期的な支払い能力(返済力)は特に問題なしと判断されます。

経常収支差額比率(教育活動の収支状況)は法人全体では0%以上、人件費比率(人件費の収入に対するバランス)は大学・短大は60%以下、教育活動資金収支差額比率(学校法人の本業である「教育活動」のキャッシュフロー状況)は法人全体では0%以上であり、教育活動においては、収益性及び資金を確保しています。

積立率(安定的に経営を行う上での保有資産の状況)は65.7%と100%以下であることから、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要があります。

流動比率(短期的な支払い能力)は149.1%と返済力には問題はありません。今後、幼稚園舎、短大の第Ⅱ期工事、高校の第二体育館の増改築等が見込まれることから、収益性を更に高め、運用資産を増加させて安全性を高めていくことが課題となります。

【参考】財務指標の意味

(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより)

①経常収支差額比率【経常収支差額/経常収入】

経常収入=教育活動収入計+教育活動外収入計

経常的な収支バランスを表す比率として、新設された比率。この比率が高いほど経常的な事業活動が安定的に行われていることを示す。

【主な財務指標】

(単位:千円)

	事業活動収入計	事業活動支出計	基本金組入前当年度収支差額	経常収支差額比率	人件費比率	教育活動資金収支差額比率	積立率	流動比率
法人全体	2,774,167	2,561,316	212,851	7.25%	57.91%	17.33%	65.7%	149.1%
大学	1,085,131	959,873	125,258	11.38%	53.64%	18.61%		
短大	933,871	856,763	77,108	8.47%	56.60%	20.49%		
高校	691,257	628,831	62,426	7.30%	60.15%	20.45%		
幼稚園	56,225	64,756	△8,531	△15.04%	80.14%	△6.31%		

資金対照表

平成28年3月31日

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	11,782,367	11,429,501	352,866
有形固定資産	8,471,031	8,651,957	△180,926
特定資産	624,898	611,958	12,940
その他の固定資産	2,686,438	2,165,586	520,852
流動資産	864,445	1,163,272	△298,827
資産の部合計	12,646,812	12,592,773	54,039
負債の部			
固定負債	600,372	598,439	1,933
流動負債	579,867	740,612	△160,745
負債の部合計	1,180,239	1,339,051	△158,812
純資産の部			
基本金	14,181,877	14,086,398	95,479
第1号基本金	13,972,352	13,876,879	95,473
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,525	13,519	6
第4号基本金	196,000	196,000	0
繰越収支差額	△2,715,304	△2,832,676	117,372
純資産の部合計	11,466,573	11,253,722	212,851
負債及び純資産の部合計	12,646,812	12,592,773	54,039

活動区分	科目	金額	科目	金額
教育活動による資金収支	学生生徒等納付金収入	1,899,413	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	355,231
	手数料収入	36,289	(1)=(6)+(10)	
	特別寄付金収入	6,196	借入金等収入	0
	一般寄付金収入	300	退職給付引当特定資産取崩収入	29,715
	経常費等補助金収入	676,991	学園充実引当資産取崩収入	4,001
	付随事業収入	58,153	修学旅行費預り資産取崩収入	135
	雑収入	65,120	小計	33,851
	教育活動資金収入計(1)	2,742,462	受取利息・配当金収入	7,428
	人件費支出	1,596,623	過年度修正収入	9
	教育研究経費支出	532,037	その他の活動資金収入計(10)	41,288
管理経費支出	122,243	借入金等返済支出	0	
教育活動資金支出計(2)	2,250,903	第3号基本金引当特定資産繰入支出	6	
差引(3)=(1)-(2)	491,559	退職給付引当特定資産繰入支出	31,649	
調整勘定等	△16,310	学園充実引当資産繰入支出	524,854	
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	475,249	預り金支払支出	413	
施設整備等活動資金収入	0	修学旅行費預り金支払支出	135	
施設整備補助金収入	10,430	小計	557,057	
施設整備売却収入	0	借入金等利息支出	0	
施設整備等活動資金収入計(6)	10,430	過年度修正支出	72	
施設関係支出	7,334	その他の活動資金支出計(10)	557,129	
施設関係支出	108,004	差引(4)=(2)-(3)	△515,841	
短大新校舎同総舎施設等引当特定資産繰入支出	11,000	調整勘定等(5)		
施設整備等活動資金支出計(7)	126,338	その他の活動資金収支差額(10)=(10)+(10)	△515,841	
差引(8)=(6)-(7)	△115,908	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)(11)+(10)	△160,610	
調整勘定等(9)	△4,110	前年度繰越支払資金	919,361	
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△120,018	翌年度繰越支払資金	758,751	

部門別事業活動収支計算書

(単位:千円)

活動区分	科目	総額	総額					活動区分	科目	総額	総額				
			大学	短大	高校	幼稚園	法人				大学	短大	高校	幼稚園	法人
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,899,413	801,966	696,597	373,582	27,268	0	収入	資産売却差額	0	0	0	0	0	
	手数料	36,289	12,935	14,137	9,184	33	0	教育活動収入	その他の特別収入	15,743	2,125	706	12,912	0	
	寄付金	7,043	1,530	1,300	3,667	546	0	特別収入合計(8)	15,743	2,125	706	12,912	0		
	経常費等補助金	676,991	215,765	173,162	265,502	22,561	0	支出	資産処分差額	2,759	74	2,678	7	0	
	付随事業収入	58,153	9,308	17,733	25,295	5,817	0	事業活動収入	その他の特別支出	72	△1	0	1	72	
	雑収入	73,108	41,301	30,062	1,115	0	630	特別支出合計(9)	2,831	73	2,678	8	72		
	教育活動収入合計(1)	2,750,996	1,082,805	932,991	678,345	56,225	630	収支差額	(10)=(8)-(9)	12,912	2,052	△1,972	12,904	△72	
	人件費	1,606,492	582,109	528,564	415,821	45,057	34,941	基本金組入前当年度収支差額	(11)=(7)+(10)	212,851	125,258	77,108	62,426	△8,531	
	教育研究経費	827,884	325,298	283,970	199,719	18,897	0	基本金組入額合計(12)	△95,479	△42,233	△27,144	△25,816	△280		
	管理経費	124,109	52,393	41,551	13,283	730	16,152	当年度収支差額	(13)=(11)+(12)	117,372	83,025	49,964	36,610	△8,811	
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	前年度繰越収支差額(14)	△283,2676	-	-	-	-			
教育活動支出合計(2)	2,558,485	959,800	854,085	628,823	64,684	51,093	基本金取崩額(15)	0	0	0	0	0			
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	192,511	123,005	78,906	49,522	△8,459	△50,463	翌年度繰越収支差額	(16)=(13)+(14)+(15)	△271,5304	-	-	-	-		
受取利息・配当金	7,428	201	174	0	0	0	(参考)								
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	事業活動収入合計	(1)+(4)+(8)	2,774,167	1,085,131	933,871	691,257	56,225		
教育活動外収入合計(4)	7,428	201	174	0	0	0	事業活動支出合計	(2)+(5)+(9)	2,561,316	959,873	856,763	628,831	64,756		
借入金等利息	0	0	0	0	0	0	事業活動収支差額	(6)=(4)-(5)	7,428	201	174	0	0		
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	経常収支差額	(7)=(3)+(6)	199,939	123,206	79,080	49,522	△8,459		
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0	基本金組入前当年度収支差額								
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	7,428	201	174	0	0	0									

富山国際大学

現役生 教員採用12名合格。新たな時代へ

子ども育成学部は、「教育と福祉のハイブリッド」を特色に掲げ、乳児から児童までの成長段階と地域の広がりなど「つながり」を大切にできる人材の育成に力を注いできました。また、実践に強い専門家を重視し、講義や演習をきめ細かに展開し、地域社会に貢献できる人材の育成をめざしてきました。

小学校教育分野では、「教員になりたい!」という学生の熱い思いに、豊富な教職経験や専門知識をもつ教授陣が全力で支援してきました。1期生6名合格から年を重ねる毎に夢を実現した学生が誕生し、地域の信頼を得ると共に、先輩をめざして努力する好循環ができました。平成29年富山県公立学校教員採用選考検査に5期生が12名合格し、来年度には計55名(H24年:6名、H25年:7名、H26年:11名、H27年:13名、H28年:18名)が教諭として教壇に立つこととなります。

目標を達成し、新たな一步を踏み出す節目です。これからも、学部のチーム力を生かし、自らの可能性にチャレンジし、互いを高め合える人材を育成していきます。

富山短期大学

第51回全国私立短期大学体育大会にて 男子バドミントン競技の部 団体戦優勝の快挙!

平成28年8月8日(月)~11日(木)の4日間、東京都、神奈川県を主会場に第51回全国私立短期大学体育大会が開催されました。本学からは、バスケットボール女子、テニス男女、バドミントン男女、ソフトテニス女子の4競技計25名の学生が参加しました。

連日厳しい猛暑の中での試合となりましたが、全員が日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。中でも男子バドミントン競技の部では、団体戦優勝、個人戦でシングルス及びダブルスにおいて準優勝をするなど見事な成績を収めました。

今大会で51回目を数える歴史ある全国私立短期大学体育大会において、団体戦での優勝は、本学初となる快挙となります。応援いただきました皆様ありがとうございました。



富山国際大学附属高等学校

インターハイ飛込競技でV!



平成28年8月17日(水)~20日(土)に広島で行われた全国高校総体の水泳競技女子3mシンクロ飛板飛込において、本校1年生の長澤明生さんが優勝の栄冠に輝きました。さらに、個人競技の高飛込でも6位入賞を果たしました。本校生徒の全国高校総体での優勝は二人目の快挙となります。

長澤さんは小学校3年生から競技を始め、高岡総合プールで本校の坂田教諭の指導を受けてきました。坂田教諭自身も日本選手権で12回の優勝を誇る名選手でした。長澤さんは高校でも競技を続け、坂田教諭の指導を受けるために4月から本校で学んでいます。

長澤さんは全国高校総体の直後に行われた全国ジュニアオリンピック3m飛板飛込でも3位に食い込んでいます。まだ1年生であり、今後のさらなる活躍が期待されます。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

遠足に行ってきました

平成28年10月13日(木)に年長組は、称名滝に遠足に行きました。事前にみんなで称名滝について調べ、計画を立て、話し合いを重ねて当日を迎えました。

立山周辺は紅葉が見られ、木の葉や山葡萄を摘んだり、湧き水を触ったりしながら、1.3kmの道のりを友だちと一緒に歩きました。滝の下では水しぶきを浴びながら、落差日本一(350m)の称名滝の雄大さを体感しました。帰り道では登山道の八郎坂を途中まで登り、ヒカリゴケを探したり、眺めを楽しんだりしました。

平成28年10月21日(金)には、年少組が呉羽山散策に、年中組はねいの里周辺へ冒険に行き、木の実やどんぐり拾いをして秋の自然の中で楽しい時間を過ごしました。

